

グローバル通信

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN
2025.8 vol.68

「ソーシャル・イノベーション」への社会的要請に挑戦する	1
委員長挨拶	2
地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ	2
2025年度－特別演習新入生紹介	3
2024年度を振り返って	4
グローバル通信編集スタッフ紹介	4
事務局インフォメーション	4

夏の風物詩であったセミの鳴き声すらも聞けないほどのうだる暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今回のグローバル通信では本年度から新設された「ソーシャル・イノベーション研究コース」について研究科長からのコラムや特別演習担当者からのメッセージに加え、新入生の紹介を掲載しております。本年度も様々な分野の学生が入学し、互いに高めあいながら研究活動に励んでおります。

また、第67号に引き続き昨年度の大学院生活を振り返っていただいたコラムも掲載しておりますので、今後ご入学を検討されている皆様にとって有益な情報にさせていただきますと幸いです。



「ソーシャル・イノベーション」への社会的要請 に挑戦する

的場 信敬

(龍谷大学大学院 政策学研究科長)

政策学研究科は、2025年度から、新たな挑戦をスタートします。これまでの「政策学研究コース」、「NPO・地方行政研究コース」に加えて、「ソーシャル・イノベーション研究コース」を新設します。

現代社会の課題は、少子高齢化、経済格差、ジェンダー問題、気候変動など多岐にわたります。政策学研究科はこれまで、これらの課題に「公共」と「協働」というキーワードを軸にアプローチしてきましたが、今回の新コース設立により、「イノベーション」という新たな軸を加え、「社会課題の原因を多面的視点から見抜く力」と「多様な領域の知見を組み合わせる新たな価値を創造する力」を養成する教育プログラムへの発展を企図しています。

ソーシャル・イノベーションへの社会的養成は、ビジネス・セクターはもちろんですが、政府セクターや市民社会セクターにおいても高まっています。われわれの教育プログラムでは、どの研究コースに所属しても、ほぼすべての講義を受講できる柔軟な体制を整えており、受講者の関心や職種に応じた「イノベーション」へのアプローチを可能にしています。

当研究科のもう1つの特徴が、院生の多様性です。若手の学部卒業生から、キャリア形成を目指す現役の社会人、そして海外からの留学生まで、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が集います。この多様な院生の活発な議論が、他にはない学びの相乗効果を生み出す原動力となっています。

当研究科は、専門性豊かで教育に情熱を注ぐ教授陣と、院生の皆さんの学びを親身にサポートする事務局体制を備えています。われわれと共に、現代の複雑な課題に挑む力を身につけ、充実した学びの時間を過ごしましょう。

委員長挨拶

地域公共人材総合研究プログラム運営委員長を務めています高畑重勝と申します。

地域公共人材総合研究プログラムは、2003年度から開設している大学院修士課程のプログラムです。

20余年の実績を重ね、これまで数多くの高度な専門的職業人を輩出してきました。

このプログラムの特徴は、地域社会を支えるさまざまな立場の社会人院生と、学部から進学した大学院生、さらには留学生の皆さんが、相互に刺激し合い、高め合う、理論と実践を架橋する学びの場となっていることです。教員の私自身も、担当している特別演習の時間は、院生の皆さんが披露される論文の内容やその議論に刺激され、とても楽しく、気づきを得る時間になっています。

また、法学研究科と政策学研究科の共同運営による多彩な履修科目の開設は、学びの広がりを生み、専門性の高い多様な知識を身に付ける機会となっています。さまざまな社会の課題を対象に、その解決に向けて、考え、学び、議論する過程を通じて、高い政策立案能力、課題解決能力、そして新しい価値を生み出し社会を変えていける力を培うことができます。

社会は、様々な課題を抱えながら、日々大きく変化しています。未来の社会にあっても、人が生きる基盤である地域に軸足を置き、高い倫理観の下に専門的な知識と高度な課題解決能力を持つ地域公共人材は、ますます活躍が期待されるものと確信しています。このプログラムを通じて、未来を創る多くの人々が集い、学び、ともに高め合えることを願っています。



地域公共人材総合研究

プログラム運営委員長

高畑 重勝

(龍谷大学政策学部教授)

地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ



内田 恭彦

(龍谷大学政策学部教授)

地域公共人材総合研究特別演習は、院生それぞれが関心をもつ地域に生じている課題、例えば少子高齢化、環境汚染、産業基盤の弱体化などについて、報告してもらい、解決に向けての政策等について議論しながら知見を深めていくものです。実際には修士論文のテーマを決定するため、ないしはテーマに即して論文執筆を進めるために活用されています。本研究科の特徴として、地方行政、NPO法人、民間企業、地方議会議員などからの社会人院生、および東アジアを中心とする留学生や学部から上がった院生と多様な背景を有する人々がいるので、本演習でもそれぞれの経験から報告された課題について意見を述べ合い、教員のコメントも含めて、地域課題及びその解決に向けて知見を深めていくことを企図しています。この演習の醍醐味は、それぞれが目にした、実際に経験したり、職場などで取り扱った地域課題という実際の社会現象を、多様な視点から検討することで相対化したり、教員が提供する理論的なフレームに基づいて考えることで、多様な検討が必要なきことに気づき、そして単なる現象としてではなくその背景にあるメカニズムを認識していくことにあります。本演習に参加される方は、他者の報告にも積極的に関わっていくことで、こうした能力と知見を深めていただければと願っています。



白石 克孝

(龍谷大学政策学部教授)

地域公共人材総合研究プログラムは、政策学研究科と法学研究科の合同運営プログラムです。教授陣は両学部にもまたがった多様な専門と社会実践に取り組む方々です。また必修の演習科目には、地域公共人材総合研究プログラムのソーシャル・イノベーション研究コースの院生、同プログラムのNPO・地方行政研究コースの院生、政策学研究コースの院生が同時に参加し、専門の異なる二人の教授が同席して指導するという特色あるカリキュラムが編成されています。ここで学ぶ修士の学生は、現役社会人院生、学部卒院生、学部卒留学生と多様性が特色です。各自の研究テーマは文字通り多様ですが、いろいろな角度からスポットライトが当てられることで、課題が立体的に浮かんでくるということを何度も味わってきました。多彩な院生が互いに出会いに刺激され、新しい学びのスタイルが生まれています。一緒にリカレント、リスキリングしませんか？

本年度も対面を基本に開講しています。夜間あるいは土曜開講なのに、対面講義にどうしてこだわるのかと言えば、年齢も経歴も違う人との出会いが人生において貴重だからです。新たな友人が生まれるって素敵なおことと思いませんか？



松尾 秀哉

(龍谷大学法学部教授)

前期(土)の授業を担当する松尾秀哉です。よろしくお願ひします。埼玉、札幌の大学を経て龍谷に着任して8年目となります。地元は名古屋で、受講者の方はご存じのとおり、熱いドラゴンズファンでもあります。

私も大学卒業後約10年、社会人(主にガス、医療機器の営業)を経験し思うところがあって大学院に進学し、周りの支えがあって今に至ります。大学院に入ったばかりのときは「先行研究を批判する」とかよくわからず、むしろ「体験談」しか話せず、ずいぶん色々な先生に注意されました。当時は何がいけないんだろう？と首をかしげていました。しかし今になってみると、それが全体的に悪いというわけではなかったような気がします。「体験」から自身の問題意識や世界を見る感覚が生まれてくる。このクラスを通じて、学術的な先行研究批判から生まれる視点によって自らの体験から生まれる問題意識を掘り、オリジナリティと芯のある学術論文を論じてください。また、出会った人たちと良き仲間であり続けられますように心がけてください。よろしくお願ひします。



渡辺 博明

(龍谷大学法学部教授)

法学部所属の渡辺です。専門は北欧、特にスウェーデンの政党政治です。対象地域の事情から、教育・福祉・労働分野の政策についても勉強してきており、地方・地域の政治にも関心をもっています。2013年より龍谷大学に勤めており、研究員の立場となった一年を除き、通年または半期で「地域公共人材総合研究特別演習」を担当してきました。

この演習の特色は、社会人大学院生の熱意に支えられた、充実した議論の場であるという点にあります。自治体やNPOでの豊富な実務経験をふまえ、具体的な課題意識をもって集まる皆さんの研究報告と討論は、今日の大学教育において非常に貴重なものだと感じています。また、学部から進学した大学院生の皆さんは、若い感性にもとづく問いや意見で議論に新たな視点をもたらしてくれますし、そこから自身の問題関心や研究方法についての理解を深めてもらうことが期待されます。

この演習は、教員にとっても、毎回提示されるさまざまな分野の現実的な論点にどのように切り込み、論文作成に結びつく助言ができるか、自らの力量が試される場でもあります。多様な背景をもつ参加者が互いに刺激しあい、高めあいながら、ともに学んでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

2025年度 – 特別演習新入生紹介

名前

自己紹介と興味のあるテーマ

北野
嘉秀

電磁誘導機器メーカーの代表です。工場でも営業活動でも、現場・現物主義を大事にしています。家庭には、大学生、高校生、中学生の三人の子供がいますが、今春からは私が一番勉強しているようです。先生・学生皆様のお人柄が素晴らしく、感謝しています。ここでの学びや経験が、企業経営に活かされること、父親の威厳を取り戻すことを願っています。

宋
佳文

みなさん、こんにちは。修士1年生の宋佳文（ソウ カブン）です。学部では経営学を専攻として勉強してきましたが、環境問題に興味を持つようになり、現在は環境政策について研究しています。特に、環境政策が地域住民の生活や地域経済に与える影響に関心があります。経営学で学んだ知識も活かしながら、社会に役立つ研究を進めたいと考えています。これから多くのことを学び、皆さんとも意見交換できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

鄭
淳

政策学部出身です。大学では環境政策についてたくさん学んできました。現在は気候政策と公正な移行について興味があり、研究活動をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

西口
高貴

夢を追いかけて大学院に入学しました。まちづくりにずっと関心があり、学部時代にはコミュニティの希薄化に課題意識を持ち始めました。そこで大学院ではコミュニティマネジメントに関する研究を行っています。たくさんの人との出会いを大切にしながら研究を進めていきます！

日隈
慈

人と話すのが好きな37歳、大津市の市議会議員です。政策に関心があり勉強中です。テーマはネット選挙と民主主義の変容で、SNSが投票行動や民主主義に与える影響を考察します。

マ
ギョクセイ

初めまして、政策研究科のマギョクセイと申します。研究テーマは福島県における避難所への再生可能エネルギー設備導入状況とその課題を研究しています。震災後、政府の支援があるにもかかわらず、設置数は他県に比べ少なく、不均衡の背景や政策の課題を明らかにし、改善策を探りたいと考えています。

森田
博史

南大阪で保険代理業を営んでおります。現在、石原ゼミで「災害関連死」をテーマに、認定制度の地域間格差や行政連携の課題について研究中です。実務経験を活かし、地域の防災力向上と制度改善に貢献できる提案を目指しています。

米丸
隼太

普段は都市部と地方を跨ぎながらまちづくりをしております。社会構造の中でどのようにしてまちづくりが生まれ、継続されていくのかに興味を持ち、実践しながら研究しています。地域金融機関として地域コミュニティの必要性を考えながら、業務に活かせる学生生活を送ることができたらと思います。よろしくお願いいたします。



水曜日クラス



土曜日クラス

王
駿暉

私は中国・北京の出身です。南海トラフ地震は、今後30年以内に発生する確率が約80%とされています。特に、2024年に発表された「南海トラフ地震臨時情報」により、この地震が現実的な課題として浮上りました。事前に被災想定地域から移転することで、被害を大幅に減らすことが可能です。そのため、私は南海トラフ地震の被災想定地域における高台移転について研究したいと考えています。

大門
祥一郎

私は、不動産登記業務である土地家屋調査士と行政書士業務に携わっています。大学を卒業後、もう一度学びたいと考えこの度、政策学研究科に入学致しました。自身の業務と学業で目のまわる忙しさですが、日々新しい発見に出会う事ができ、非常に充実した楽しい日々を過ごしています。再び、大学で学ぶことができる機会が与えられた事に喜びと感謝しております。興味のあるテーマは所有者不明土地問題についてです。

嶋田
典明

社会人として4月まで東京で生活しておりましたが、京都に家族と引っ越しをしてこちらにお世話になっております。勉強している理由は、国を憂いてという大げさかもしれませんが、こちらで学んで将来は故郷の千葉に戻って恩返しができる仕事ができればいいなと思っています。

トウ
コウゲツ

初めまして、トウコウゲツと申します。現在、龍谷大学大学院政策学研究科修士課程1年生として在籍しております。出身地は中国山東省です。趣味は健身（フィットネス）、旅行、そしてライブです。様々な場所を訪れて新しい文化や風景に触れることや、音楽を通じて感動を味わうことが大好きです。現在、私が特に関心を持っている研究テーマは、外国人観光客と日本の過疎化地域に関する問題です。これらの地域が抱える課題と、観光を通じた地域活性化の可能性について深く探究したいと考えています。

私の研究計画書のタイトルは「過疎化地域におけるSNS観光プロモーション—外国人観光客へのアンケート調査を中心に—」です。SNSを活用した観光プロモーションが過疎化地域の活性化にどのような効果をもたらすかを、外国人観光客の視点から分析することを目指しています。どうぞよろしくお願いいたします。

成松
正樹

商業系デベロッパーにて商業施設の管理運営業務に従事しています。京都府中小企業診断協会からご縁あって入学いたしました。商業施設デベロッパーがソーシャルイノベーションを実践する過程において、商業施設とソーシャルエンタープライズとが、どのような関係を構築すれば、社会的価値と経済的価値の更なる向上を実現できるのかについて研究しています。みなさま宜しくお願いいたします。

林
リエ

向日市議会議員になり2年が過ぎます。私たち40代後半女性は、子育てと仕事等の両立が難しい時代に子育てをした為、リカレント教育の素晴らしさを感じます。勉強についていくのも大変ですが、成長出来る日々感謝しています。この1年高い壁も感じますが、同時多発能力を益々磨き、この学びを向日市政に反映します！

山本
安紋

龍谷大学経済学部から進学しました。大学院では、地域に根付いた産業と災害復興に焦点をあて、「産業の持続要因が地域の復興に与える影響」をテーマに研究を行っています。大学とフィールドを行ったり来たりしながら、学問に没れる日々を楽しんでいます。

楊
一諾

楊一諾（ヨウカズツグ）と申します、出身地は中国・山東省です。趣味は旅行とゲームです。大学では経営学を専攻し、教授の指導に従って、商店街を例として、中小企業の衰退要因を探究しました。この中で、一番深刻な問題は後継者不足です。このような問題の根本原因は「経営」ではなく、「政策」の原因と考えられ、政策学研究科に入り、地域活性化、まちづくりについて研究しています。



2024年度を振り返って

政策学研究科 修士2回生

井元 遥己さん

私は大学院進学時に、「より主体的に物事に取り組み、人との関わりを大切にすること」を目標としていました。昨年度は、その目標を達成できたと言えるような、学びの多い充実した一年間を過ごすことができました。

学業では、主に地域課題の解決の手法を学び、外部の方々との連携を取るPBL形式の講義に積極的に参加させていただきました。学部の際と比較すると、様々な立場の方が参加するチームの中で、自分の役割を把握し行動する姿勢を養うことができました。また、実習を通じて、地域住民の方々や関係者等の声を直接聞き、コミュニケーションを取る機会を多く得ました。その中で、多様な意見を尊重しながら、誰もが納得できる話し合いをすることの重要性を実感いたしました。研究活動におきましても、先生方や同級生と意見を交わす中で、自身とは異なる発想やご助言、ご指導を沢山いただき、研究への理解、ひいては政策課題への理解を深めることができました。

政策学研究科 修了生

松尾 裕樹さん

「働きながら修士課程を1年で修了するのは並大抵のことではないです。覚悟しておいてくださいね。」入学予定者説明会の場で、とある先生からいただいたお言葉です。この言葉から、私の大学院生活が始まりました。（実際には、もっと“シビアなお言葉”でしたが…笑）

当初は「叱咤激励」と受け止めていたその言葉も、ボディブローのようにジワジワと実感することになりました。いざ入学すると、レポート、グループワーク、修論の調査……次々と押し寄せる課題に追われ、11月頃には何とも言えない不安な気持ちが毎日を包み込み、年末年始は「いつ寝たのか自分でも覚えていない」ような日々…。

このように書くと「ただ辛かった」と聞こえるかもしれませんが、「あの日々を乗り越えた」という経験が、今となっては私の確かな自信へと変わっているように思います。

時間の使い方も大きく変わりました。一番頭が回転する朝の通勤時間を有効活用し、思いついた文章やアイデアをスマホのメモ機能を使って書き溜め、それを素材にしてレポートや修論を執筆しました。「時間を作る」のではなく「時間の使い方を変える」。この考え方の転換が、仕事と学業を両立するうえでの大きな気づきでした。

そしてなによりも、ご指導いただいた先生方、志を同じくする院生の仲間たちと出会えたことが、私のかけがえのない財産となっています。

「大変でも大丈夫。修了式では皆さんニコニコの笑顔ですよ。」このお言葉も、とある先生からいただいたものです。ぜひ自分の力を信じて進んでください。私もその道を歩んだひとりとして、心から応援しています。

編集スタッフ紹介



グローバル通信68号は、前年度から引き続き安道亮・佐竹星哉と今年度から担当する山本安紋の3名で編集いたしました。2025年度も魅力あるグローバル通信をみなさまへお届けできるよう努めます。よろしくお願いいたします。

事務局インフォメーション

2025年度 協定先懇談会報告

7月24日（木）、初めて対面とオンラインのハイブリッド方式にて開催し、合計32団体のみなさまのご出席を賜りました。

意見交換の場では本学へのご意見や修了生として経験をご紹介いただくなど、有意義な時間となりました。

2026年度 協定先推薦入試日程

11月入試 【出願期間】 2025年10月2日(木)～10月9日(木)
【試験日】 2025年11月9日(日)

2月入試 【出願期間】 2026年1月3日(土)～1月16日(金)
※政策学研究科のみ 【試験日】 2026年2月21日(土)

地域公共人材総合研究プログラム ニュースレター『グローバル通信』通巻68号 2025年8月

発行/龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム H P/ https://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/

連絡先/政策学部教務課

TEL: 075-645-2285 FAX: 075-645-2101

編集/安道亮、佐竹星哉、山本安紋

編集補助/神野華奈子、越野智晶

監修/グローバル通信編集委員会